

長崎県肝炎医療助成制度からみた C 型肝炎患者申請者の変遷

研究分担者 山崎一美 国立病院機構長崎医療センター・臨床研究センター・臨床疫学研究室長

研究要旨

我が国の C 型肝炎の治療は、IFN-base 治療から IFN-free 治療に移行した。これに伴い IFN 抵抗性または不適応症例が治療可能となった。これに伴い治療対象者に近年どのような変化したのか明らかにすることを目的とした。IFN 治療と比較して、IFN-free 治療の対象者は、70 才以上、肝硬変症例へシフトしていた。IFN 治療と比較して IFN-free 治療により、女性の治療者が増加した。

研究協力者 国立病院機構長崎医療センター 八橋 弘
長崎大学病院消化器内科 中尾一彦

A. 研究目的

我が国の C 型肝炎の治療は、IFN-base 治療から IFN-free 治療に移行した。これに伴い IFN 抵抗性または不適応症例が治療可能となった。

本研究では治療対象者に近年どのような変化があったのかを明らかにする。

B. 研究方法

2008年4月～2017年8月に長崎県肝炎医療助成を申請したC型肝炎患者4,110人（IFN-base治療2,185人、IFN-free治療1,925人）を対象とした。

解析は長崎県福祉保健医療政策課の協力を頂いた。本研究は国立長崎医療センター・倫理委員会において承認された。

C. 研究結果

1) 対象の背景

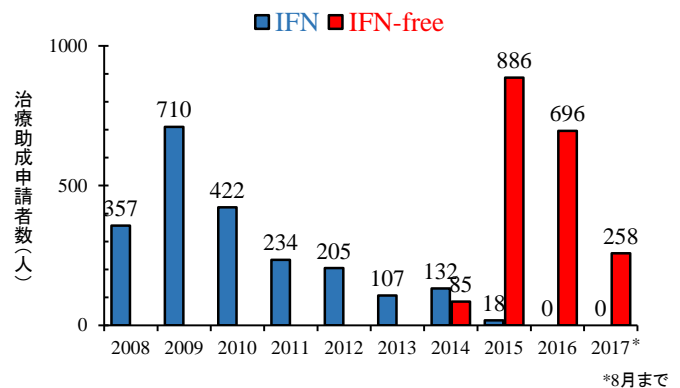
対象例の背景を表 1 に示す。IFN を含む治療では受給者 2,185 人に対して、2014 年 12 月から申請可能となった IFN-free 治療受給者は 1,925 人であった。男はそれぞれ 1,152 人（52.7%）、852 人（44.3%）と IFN-free 治療は有意に男性の占める割合が少なく、女性が多かった（ $p < 0.001$ ）。年齢はそれぞれ 57.7 歳と 66.5 歳で、IFN-free 治療群は有意に高齢であった（ $p < 0.001$ ）。肝硬変症例はそれぞれ 43 人（2.0%）、338 人（17.6%）で有意に IFN-free 治療群に多かった（ $p < 0.001$ ）。

2) 医療助成受給者における治療法別年次推移
図 1 に C 型肝炎治療助成受給者数の治療法別推

（表1）C型肝炎医療費受給者の背景

	IFN	IFN-free	p
期間	'08年4月～ '17年8月 (9年4ヶ月)	'14年12月～ '17年8月 (2年9ヶ月)	—
受給者数	2,185	1,925	—
男, n (%)	1,152 (52.7)	852 (44.3)	<0.001
年齢平均値	57.7 (19 - 81)	66.5 (20 - 91)	<0.001
genotype 1, n (%)	—	1,547 (80.4)	—
肝硬変, n (%)	43 (2.0)	338 (17.6)	<0.001
助成1万円, n (%)	—	1,818 (94.4)	—

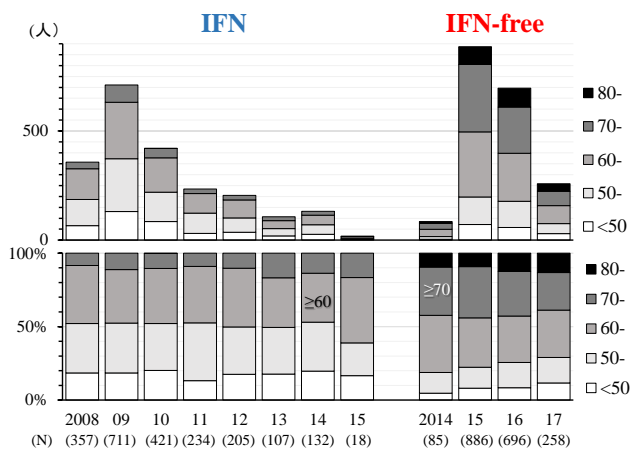
移を示す。IFN 治療 2009 年 710 人をピークにその後漸減して 2016 年以降は申請者はいなかった。一方、IFN-free 治療は 2015 年 886 人と過去最高であった。その後は減少傾向にある。



（図1）C型肝炎治療助成受給者数の推移

3) 受給者年齢の経時推移

図2に受給者年齢の経時推移を示した。IFN治療では、2008年から2015年まで年齢構成はほぼ一定で60才以上の占める割合は50%前後であった。一方、IFN-free治療になると60才以上の占める割合が70-80%台と増加、70才以上は40%台と高齢者にシフトした。また80才以上はIFN治療ではまれであったがIFN-free治療では増加し全体の10%占めていた。



(図2)受給者の年齢の経時推移

D. 考察

本研究では、C型肝炎医療助成受給者における治療法の変化による受給者に与える影響を検討した。

C型肝炎医療助成受給者において、IFN治療は2009年をピークに漸減し、2015年を最後に受給者申請者はいなくなった。その間IFN治療の年齢構成は一定であった。

C型肝炎患者は、新規感染者が著減していることから高齢化が進んでいるといわれている。しかしながらIFN治療受給者の年齢は常に一定であ

り高齢者への治療が増加していることはなかった。IFN-free治療が開始となると同時に60才以上の患者が70%以上に増加していた。IFN治療が有する副作用の問題から高齢者への導入が困難であったことがうかがえる。患者集団が高齢化するに従いIFN治療対象者が減少していたと思われる。そして高齢者に対しても投与可能となったIFN-free治療の出現により、IFN治療導入困難症例が治療対象になったと考えられる。またIFN-free治療の肝炎医療助成対象者は我が国のC型肝炎患者母集団のうち肝癌合併、非代償性患者を除いた集団の背景に近似していると考えられる。

E. 結論

IFN治療と比較して、IFN-free治療の対象者は、70才以上、肝硬変症例へシフトしていた。IFN治療と比較してIFN-free治療により、女性の治療者が増加した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

第42回日本肝臓学会西部会 シンポジウム
9 B型、C型肝炎患者拾い上げの取り組み
2017年12月1日

H. 知的財産権の出願・登録状況

今回の研究内容について特になし。